

観光資源に対する住民愛着度

—奈良市内の観光資源を事例として—

麻 生 憲 一

- I. はじめに
- II. アンケート調査の実施概要
- III. 回答者の基本的属性
- IV. 住民愛着度と訪問参加頻度
- V. 因子分析
- VI. 属性別重心と因子得点
- VII. まとめ

キーワード：観光資源、愛着度、因子分析、住民評価

I. はじめに

奈良市には、世界遺産としての「古都奈良の文化財」（東大寺・興福寺・春日大社・春日山原始林・元興寺・平城宮跡・薬師寺・唐招提寺）を始め、超一級品の国宝・重要文化財群など、世界に誇れる歴史的な文化財遺産が数多く存在している¹⁾。また、自然景観も素晴らしく、奈良市街の東側一帯には、明治13年に開設された「奈良公園」が開け、園内は美しい芝生と松木立におおわれ、緑豊かな憩いの場として人々に親しまれている。1150頭あまりの鹿が園内に群れ遊び、鹿との触れ合いを楽しめるスポットにもなっている。わが国が誇る歴史的な文化財と四季折々の美しい自然景観とが渾然一体となり、そこを訪れる観光客だけでなく、そこに住む住民にとっても貴重な財産となっている。

本稿では、奈良市内の代表的な歴史的な文化財・観光資源（17項目）について奈良市民の愛着度を質問し、その項目から奈良市民の愛着度形成の要因を因子分析により考察する。

II. アンケート調査の実施概要

アンケート調査の概要を表1にまとめた。回答対象者は奈良市内に在住する世帯の代表者（世帯の家計状況をよく知る者）である。配布先として配布対象地域を奈良市内の5地区（東南部、北西部、中心部、西部、西南部）に分割し、ランダムな投函による配布（ポスティング）を各地区600部ずつ行い、それ以外に地域的片寄りはあるものの面接調査により224部を回収した。A地区はJR奈良駅周辺、古市町、紀寺町等の東南部地域、B地区は近鉄西大寺駅周辺、平城等の北西部地域、C地区は奈良県立大学周辺、法華寺町等の中心地域、D地区は学園前、登美ヶ丘周辺の西部地域、E地区は奈良市役所、四条大路、薬師寺周辺の西南部地域である。

全体として942部回収し、ポスティングによる回収率は23.9%であった。地域間で回収率に若干の差がみられ、C地区の回収率が26.7%で最も高く、E地区の回収率が17.0%で最も低い。（表1-1参照）

抽出率は0.66%で、これは平成16年5月現在の奈良市の世帯数で回収部数を除したものである。なお、有効回答率は97.6%であった。

表1 アンケート実施の概要

回答対象者	奈良市内の住民(世帯代表者)
配布対象地域	奈良市内5地区 A地区：東南部・・・JR奈良駅周辺、南京終町、寺町、古市町、紀寺町、横井等 B地区：北西部・・・近鉄大和西大寺駅周辺、平城、秋篠新町等 C地区：中心部・・・奈良県立大学周辺、法華寺町、芝辻町、多門町等 D地区：西部・・・近鉄学園前駅周辺、登美ヶ丘、学園緑ヶ丘、富雄等 E地区：西南部・・・奈良市役所周辺、四条大路、薬師寺、六条町、七条町等
配布回収方法	1：ポスティング・・・各地区を訪問した上で、ランダムな投函による配布、回収においては郵送回収を実施 2：面接調査・・・調査員が通行人に面接調査、または戸別訪問し面接調査
実施期間	調査期間：2004年3月16日～30日 回収期間：3月18日～5月17日まで
回収部数	合計部数 942部
有効回答率	97.6%(有効回答数 918部)
抽出率	0.66% (回収部数 942/奈良市の世帯数 143,494世帯)

表1-1 配布対象地区別回収状況

	ポスティング	回収率(%)	面接調査	全体
A地区	139	23.2	1	140
B地区	148	24.7	15	163
C地区	160	26.7	9	169
D地区	136	22.7	140	276
E地区	102	17.0	59	161
不明	33	5.5	0	33
合計	718	23.9	224	942

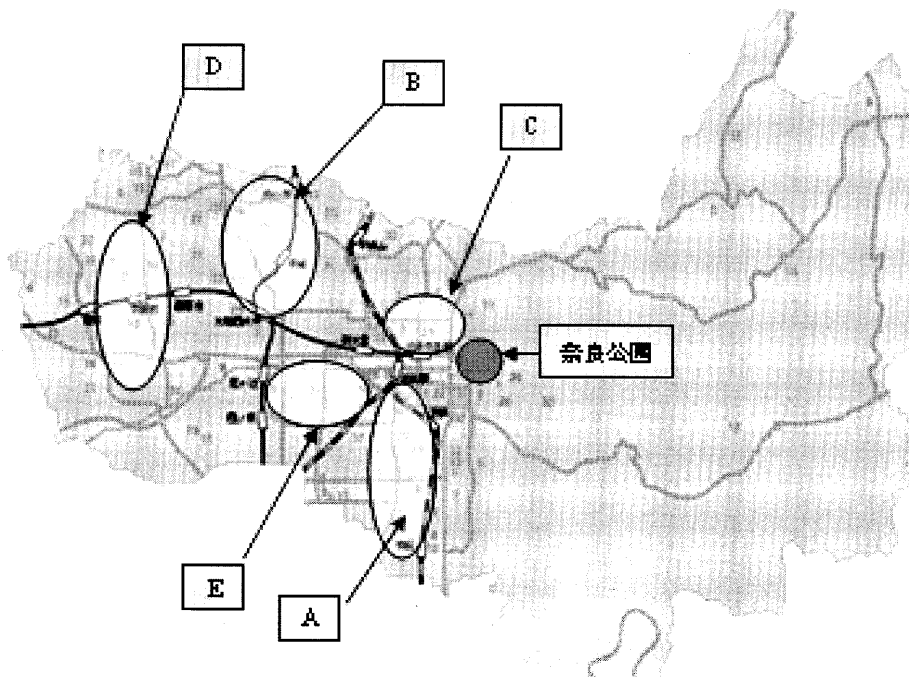


図1 調査区域図

Ⅲ. 回答者の基本的属性

表2は回答者の基本的属性を地区別に示している。まず性別では全体で女性（51.3%）が男性（48.7%）をやや上回る。地区別ではA地区で男性が女性を上回り、D地区で女性が男性を上回る。他地区ではほぼ同率である。次に年齢別では、全体で60歳代が25.8%で最も高く、50歳代がそれに続く。地区別でみるとA、B、C地区では50歳代が最も高く、D地区とE地区は60歳代が最も高い。職業別では、主婦の比率が最も高く全体で31.5%、そして無職がそれに続く。地区別でみるとA地区とC地区では無職が最も高い。無職の比率が総じて高いのは高齢者の比率が高いためである。学歴別では、大学卒が全体で43.7%を占め最も高く、高校卒がそれに続く。地区別ではE地区で高校卒の比率が最も高くなっている。最後に年収別では、全体で300万円以下が19.4%で最も高い。地区別でみると、B地区では801～1000万円が最も高く、D地区では601～800万円が最も高い。それ以外の地区では300万円以下が最も高くなっている。年収300万円以下の比率が高いのは、無職並びに退職高齢者の比率が高いためである。

表2 配布対象地区別回収状況

		(%)						
		全体	A地区	B地区	C地区	D地区	E地区	不明
性別	男性	48.7	53.6	49.4	49.4	43.1	50.0	60.6
	女性	51.3	46.4	50.6	50.6	56.9	50.0	39.4
年齢	20歳代	6.9	2.1	4.4	9.7	8.1	9.5	3.0
	30歳代	8.1	5.7	6.3	6.7	10.3	8.9	12.1
	40歳代	15.1	10.7	20.3	13.3	14.0	19.0	9.1
	50歳代	24.9	29.3	27.8	23.6	22.1	23.4	30.3
	60歳代	25.8	30.7	26.6	21.8	25.0	27.2	21.2
	70歳代	15.8	18.6	12.0	20.6	16.2	9.5	24.2
	80歳代以上	3.3	2.9	2.5	4.2	4.4	2.5	0.0
	職業	農業	0.4	1.4	0.6	0.0	0.4	0.0
	製造業	4.1	3.6	5.7	4.2	2.3	5.7	6.1
	運輸・通信業	1.4	2.1	2.5	0.6	0.8	1.3	3.0
	卸売・小売業	4.5	3.6	3.2	3.6	5.3	2.5	21.2
	金融・不動産業	1.6	1.4	0.0	3.0	1.9	1.9	0.0
	建設業	1.7	2.1	1.3	2.4	1.5	1.9	0.0
	観光業	0.8	2.9	0.0	0.6	0.4	0.6	0.0
	サービス業	8.1	12.1	3.8	9.6	6.1	9.6	12.1
	公務員	6.5	7.1	5.7	4.8	6.8	7.0	12.1
	主婦	31.5	27.9	34.2	25.9	36.9	31.8	18.2
	無職	26.3	29.3	25.9	28.9	27.8	18.5	27.3
	学生	4.0	0.0	3.8	7.2	4.6	4.5	0.0
	その他	8.9	6.4	13.3	9.0	5.3	14.6	0.0
学歴	中学卒	3.3	4.4	2.6	4.3	3.4	1.9	3.1
	高校卒	31.3	30.7	25.5	32.5	28.4	41.9	28.1
	短大卒	10.9	11.7	11.1	9.2	11.9	9.7	12.5
	専修・専門学校卒	3.9	2.9	3.3	6.1	2.3	4.5	9.4
	高専卒	1.8	1.5	1.3	3.1	1.9	1.3	0.0
	大学卒	43.7	45.3	48.4	38.7	48.7	34.8	43.8
	大学院卒	2.8	1.5	7.8	3.7	1.1	1.3	0.0
	その他	2.3	2.2	0.0	2.5	2.3	4.5	3.1
年収	300万円以下	19.4	22.3	14.6	24.4	15.5	22.7	20.0
	301～400万円	16.6	17.7	14.6	21.3	16.0	15.6	6.7
	401～500万円	12.3	16.2	11.3	11.9	9.6	13.3	20.0
	501～600万円	9.8	11.5	9.3	8.1	10.0	9.4	13.3
	601～800万円	14.7	13.8	9.9	11.9	18.3	18.0	16.7
	801～1000万円	12.0	6.9	15.9	13.1	11.9	11.7	10.0
	1001～1200万円	7.3	6.2	10.6	4.4	8.7	5.5	10.0
	1201～1500万円	4.0	2.3	7.3	2.5	5.0	3.1	0.0
	1501万円以上	3.8	3.1	6.6	2.5	5.0	0.8	3.3

IV. 住民愛着度と訪問参加頻度

奈良市内の歴史的文化財並びに観光資源の17項目に対する奈良市民の愛着度と訪問参加頻度をアンケート質問紙で尋ねた。結果を表3と表4に示した。表3で、奈良市民にとって「とても愛着を感じる」と回答した中で最も回答率が高かったのが「奈良公園」(64.3%)である。「とても愛着を感じる」と「まあまあ愛着を感じる」との合計では、「奈良公園」と「東大寺」が94.3%の同率で最も高く、次に「春日大社」と「若草山」が同率(90.6%)で続いている。逆に、「まったく愛着を感じない」と回答したものでは、「バサラ祭り」「奈良ドリームランド」が高い回答比率を示した。表4では、奈良市民の訪問参加頻度を尋ねている。奈良市民にとって「よく行ったり参加したりする」ものとして最も回答比率が高かったのは表3と同様「奈良公園」(48.2%)で、以下「東大寺」「春日大社」と続いている。逆に「まったく行ったり参加したりしない」ものとしては、やはり表3と同様、「バサラ祭り」「奈良ドリームランド」が高い比率を示している。表5では、愛着度と訪問参加頻度との間には有意な相関関係がみられることが、 χ^2 検定により確かめられた²⁾。

表3 あなたは以下のものを、奈良に住む住民として、どの程度愛着を感じますか？

	(%)					回答数
	まったく愛着を感じない	あまり愛着を感じない	まあまあ愛着を感じる	とても愛着を感じる	分らない	
春日大社	1.2	6.7	44.8	45.8	1.4	896
東大寺	1.2	3.4	31.2	63.1	1.2	894
元興寺	5.3	27.7	35.3	21.6	10.1	858
春日若宮おん祭	5.2	20.1	40.2	29.0	5.5	872
若草山	1.2	6.5	40.7	49.9	1.8	886
新薬師寺	4.4	26.4	40.1	23.9	5.2	864
なら燈花会	8.3	26.6	38.5	19.5	7.0	860
猿沢池	3.4	11.8	45.6	37.2	1.9	868
唐招提寺	3.4	15.9	37.6	39.6	3.5	878
奈良公園	1.2	3.5	30.0	64.3	1.1	894
志賀直哉旧居	12.0	35.5	32.0	12.3	8.2	844
バサラ祭り	34.5	34.2	12.5	3.6	15.2	836
興福寺	3.3	12.3	39.9	41.5	2.9	856
奈良ドリームランド	34.4	33.9	21.5	5.9	4.3	842
ならまち	6.3	19.4	47.0	23.9	3.3	862
薬師寺	3.5	17.0	41.2	35.0	3.3	874
平城京跡	3.6	14.9	41.9	36.9	2.6	884

表4 あなたは実際に、どの程度、以下のものに行ったり参加したりしますか？

	(%)					回答数
	まったく行ったり参加したりしない	あまり行ったり参加したりしない	時々行ったり参加したりする	よく行ったり参加したりする	分らない	
春日大社	3.4	14.2	55.5	26.5	0.4	872
東大寺	3.5	15.3	49.3	31.4	0.4	866
元興寺	23.8	41.8	24.8	7.2	2.5	840
春日若宮おん祭	22.0	35.0	30.2	11.3	1.6	852
若草山	6.3	30.4	47.9	14.7	0.7	860
新薬師寺	21.9	37.8	29.3	9.2	1.9	848
なら燈花会	29.0	26.5	28.5	13.7	2.4	840
猿沢池	5.7	18.6	46.0	29.4	0.3	862
唐招提寺	15.8	30.6	39.6	12.9	1.1	856
奈良公園	2.1	8.8	40.5	48.2	0.4	876
志賀直哉旧居	34.7	40.9	18.1	3.5	2.8	824
バサラ祭り	65.8	21.7	5.3	2.4	4.9	840
興福寺	11.5	21.8	39.8	25.4	1.5	844
奈良ドリームランド	42.2	36.5	15.5	4.7	1.1	846
ならまち	10.1	25.2	41.0	22.8	1.0	868
薬師寺	13.4	32.2	37.9	15.2	1.3	866
平城京跡	8.5	26.1	39.6	24.8	1.1	876

表5 愛着度と訪問参加頻度の相関

	χ^2 値	P 値	n
春日大社	625.98	0.00	903
東大寺	637.90	0.00	901
元興寺	614.51	0.00	878
春日若宮おん祭	668.19	0.00	889
若草山	383.12	0.00	897
新薬師寺	691.75	0.00	888
なら燈花会	659.39	0.00	882
猿沢池	659.25	0.00	893
唐招提寺	663.83	0.00	897
奈良公園	850.72	0.00	905
志賀直哉旧居	695.08	0.00	873
バサラ祭り	886.09	0.00	875
興福寺	881.77	0.00	877
奈良ドリームランド	697.06	0.00	882
ならまち	748.25	0.00	893
薬師寺	727.85	0.00	898
平城宮跡	742.84	0.00	905

表6 愛着度に対する17項目の因子負荷量

	因子1	因子2	因子3
唐招提寺	0.7882	0.2808	0.0275
薬師寺	0.7396	0.3085	0.1540
新薬師寺	0.7165	0.2238	0.1963
元興寺	0.6459	0.2569	0.2828
興福寺	0.6117	0.4554	0.1801
志賀直哉旧居	0.5224	0.1633	0.4127
若草山	0.1694	0.6962	0.2203
東大寺	0.3926	0.6919	0.0333
奈良公園	0.2142	0.6771	0.1656
猿沢池	0.2380	0.5840	0.3455
春日大社	0.4403	0.5279	0.1247
バサラ祭り	0.1978	0.0108	0.5980
なら燈花会	0.2801	0.2266	0.5550
ならまち	0.3060	0.2647	0.5474
奈良ドリームランド	-0.1098	0.1742	0.5135
春日若宮おん祭	0.2748	0.4656	0.3858
平城宮跡	0.3156	0.3918	0.3240
2乗和(固有値)	3.6235	3.0879	2.0405
寄与率(%)	21.31%	18.16%	12.00%
累積寄与率(%)	21.31%	39.48%	51.48%

V. 因子分析

奈良市内の歴史的文化財・観光資源に対する奈良市民の愛着度の形成要因を主因子法により因子分析を行った。17項目について分析を行った結果、奈良市民の歴史的文化財・観光資源に対する愛着度を3つの因子に分類することができた。なお因子数の決定においては、因子負荷量の絶対値、寄与率、2乗和(固有値)を用いた。

第一因子(因子1)は唐招提寺、薬師寺、新薬師寺、元興寺、志賀直哉旧居の5項目が含まれる。これを**歴史的建造物要因**とする。第二因子(因子2)は奈良公園を中心とする若草山、東大寺、猿沢池、春日大社の5項目が含まれる。これを**公園景観要因**とする。また第三因子(因子3)はバサラ祭り、なら燈花会、ならまち、奈良ドリームランドの4項目が含まれる。これを**観光イベント要因**とする。これら3つの要因の累積寄与率は51.4%である。春日若宮おん祭と平城宮跡は3つの因子項目に含まれなかった。

VI. 属性別重心と因子得点

(1) 地区

調査地区5地区の因子得点をそれぞれ算出し、それを表7と図2と図3で示した。

まずA地区では愛着度の形成要因として3因子とも正值であり、特に歴史的建造物要因(因子1)に強く影響を受けている。逆にB地区は3因子とも負値であり、特に公園景観要因(因子2)は愛着度形成に対して負の影響をもつ。C地区では、歴史的建造物要因は負値であるが、その他の2因子は正值である。公園景観要因は愛着度形成に強く影響を与えている。D地区では、公園景観要因が負値で、後の2因子は正值である。B地区と同様、公園景観要因は愛着度形成に対してマイナスに働いている。最後にE地区では、観光イベント要因(因子3)が正值で、後の2因子は負値である。特に歴史的建造物要因は愛着度形成に対して負の影響がみられる。

因子得点の有意性を考慮しなければならないが、歴史的文化財・観光資源に対する奈良市民の愛着度形成に地域間で差があることがわかる。

表7 属性別重心(地区)

項目名	n	因子1	因子2	因子3
A	111	0.1786	0.1063	0.0195
B	109	-0.0040	-0.1205	-0.0795
地区 C	124	-0.1329	0.1949	0.0151
D	149	0.1246	-0.1715	0.0007
E	122	-0.1418	-0.0120	0.0425

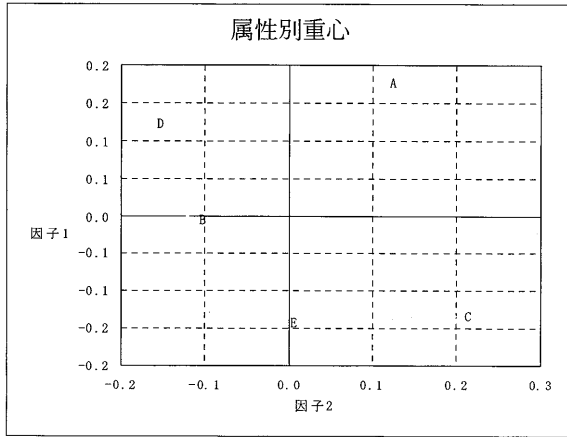


図2

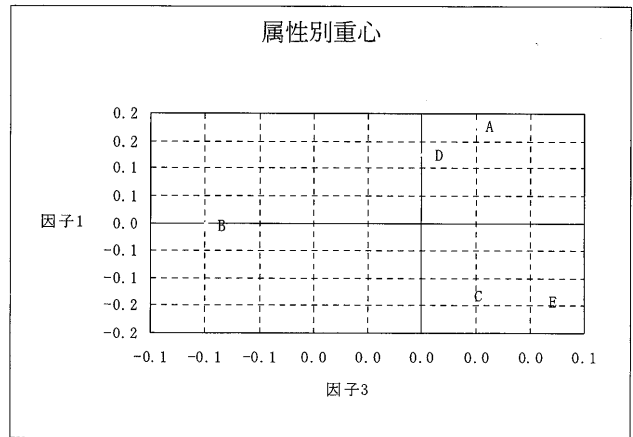


図3

(2) 性別

表8は男女別の因子得点を示している。因子得点の符号はお互い逆になっている。男性は観光イベント要因(因子3)が負値で、後の2因子は正值であるが、女性は因子3が正值で、後の2因子は負値である。男女とも因子1と因子2の因子得点の数值はさほど大きくなく、統計的有意性に注意する必要がある。観光イベント要因(因子3)は、男性では愛着度形成に対して負の影響をもつものに対して、女性の場合は逆に正の影響を受けている。女性は男性に比べて、イベントや町並み散策に愛着を持ちやすいと考えることができる。

表8 属性別重心(性別)

項目名	n	因子1	因子2	因子3
性別 男性	303	0.0560	0.0353	-0.1485
性別 女性	331	-0.0516	-0.0327	0.1303

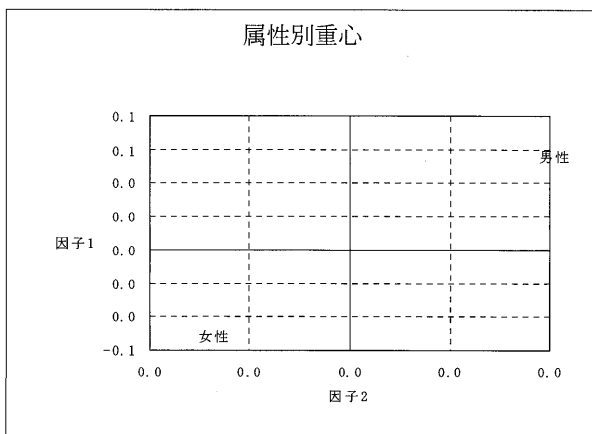


図4

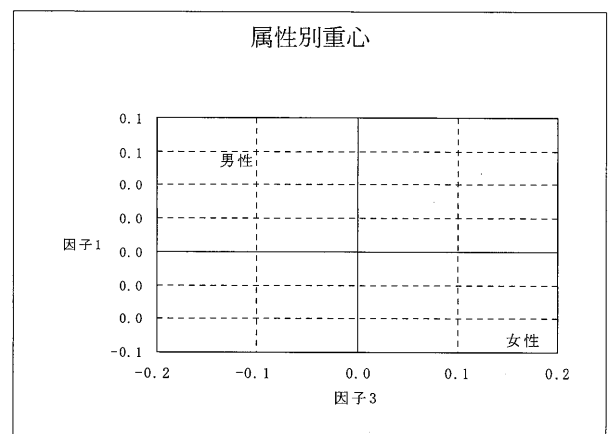


図5

(3) 年齢

表9では年齢別に因子得点を算出している。歴史的建造物要因(因子1)では、50歳代から70歳代までが正值で、後の年代は負値である。公園景観要因(因子2)では、30歳代、60歳代、70歳代が正值で、後は負値である。観光イベント要因(因子3)では、20歳代から50歳代までが正值で、後は負値である。80歳代以上では全ての因子で負値となった。愛着度形成に対して、因子の影響が年齢層で異なっている。高い年齢層ほど歴史的建造物要因に強く影響を受け、観光イベント要因に対しては負の影響を受ける。逆に若い年齢層ほど観光イベント要因に強い影響を受け、歴史的建造物要因に対しては負の影響を受ける。なお80歳代以上の年代は他の年齢層に比べて特異な傾向を示すが、サンプル数が少数であるため判断には注意が必要とされる。

表9 属性別重心(性別)

項目名	n	因子1	因子2	因子3
20歳代	41	-0.7620	-0.1427	0.4157
30歳代	51	-0.5177	0.1187	0.1402
40歳代	106	-0.3236	-0.0470	0.1111
50歳代	157	0.0807	-0.0537	0.0543
60歳代	166	0.2267	0.0675	-0.1410
70歳代	97	0.4790	0.0488	-0.1717
80歳代以上	15	-0.2810	-0.1639	-0.3603

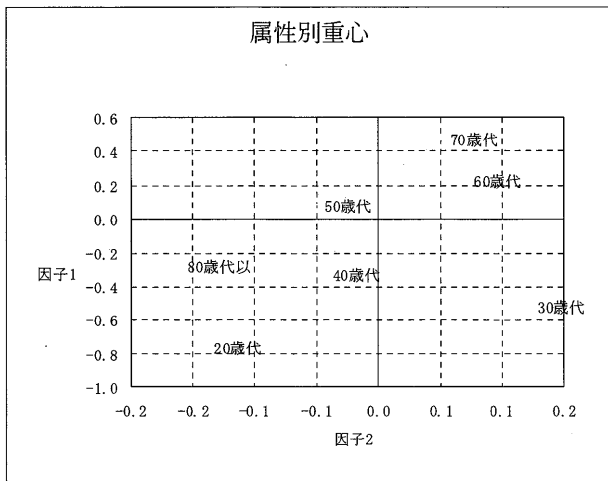


図6

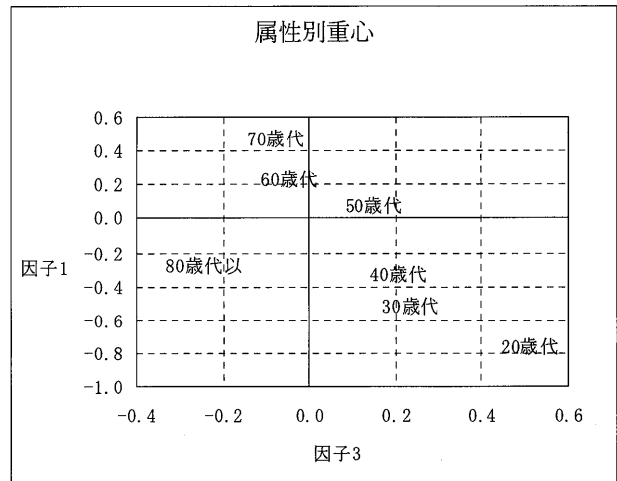


図7

VII. まとめ

本稿は、国際観光都市である奈良市の代表的な歴史的文化的文化財・観光施設・観光イベントに対して、奈良市の住民を対象にアンケート調査を行い、奈良市民の観光資源への愛着度形成要因を導出することを目的とした。

まず、奈良市の代表的な17項目の観光資源について、住民の愛着度の度合いを質問し、因子分析によりそれを類型化した。その結果、観光資源に対する住民の愛着度形成要因は、歴史的建造物要因、公園景観要因、観光イベント要因の3つの因子に分類することができた。また、これらの因子について属性別に因子得点を算出した。地区別属性でみると、奈良公園周辺地区は愛着度要因として公園景観要因に強く影響を受ける。逆に公園から遠方のB地区やD地区は公園景観要因の影響は弱い。性別属性では、男性は歴史的建造物要因の影響を強く受け、女性は観光イベント要因の影響を強く受ける。年齢別属性では、愛着度形成に対して高年齢層ほど歴史的建造物要因の影響を強く受け、若年齢層ほど観光イベント要因の影響を強く受けている。

付記

本稿のアンケート調査は奈良県立大学共同研究助成費により実施されたものである。また、本稿は、奈良県立大学第3回「地域創造に関する全国ネットワーク交流研究会」(2004年7月)、韓国観光産業学会「2004国際観光学術大会」(2004年8月)、日本観光学会第90回全国大会(2004年11月)での報告内容の一部を加筆修正したものである。

謝辞

本稿アンケート調査票の質問項目の一部は、共同研究者である堀野正人先生並びに遠藤英樹先生により作成されたものである。両先生並びに貴重なコメントを頂いた、神頭広好(愛知大学)、石川修一(神戸学院大学)、Cho, Kwang-ick (Catholic University of Daegu)の先生方には、厚く感謝致します。ただし、ありうる誤謬は当然に筆者の責任である。

注

- 1) 奈良県内には2005年1月現在で国宝・重要文化財は1,381件指定されている。そのうち6割以上の900件近くが奈良市内に存在する。
- 2) 愛着度と訪問参加頻度に統計的に有意な正の相関があるとは、「愛着度の強い観光資源ほど訪問頻度が増加する」あるいは「訪問頻度の増加は観光資源に対して愛着度を強める」という仮説を立証するものである。

参考文献

- 1) 麻生憲一(2004),「仮想評価法による奈良公園の住民価値評価」,日本観光学会第89回全国大会,研究発表要旨集, pp.28-29.
- 2) 麻生憲一(2004),「地域観光資源と住民評価－奈良公園を事例として－」,韓国観光産業学会2004国際観光学術大会,論文集, pp.661-673.
- 3) 麻生憲一(2004),「観光資源に対する住民愛着度の分析－奈良市内の観光資源を事例として－」,日本観光学会第90回全国大会,研究発表要旨集, pp.20-21.
- 4) 麻生憲一(2004),「歴史的・地域資源に関する住民評価－天理市柳本町を事例として」,『奈良県立大学 研究季報』第15巻第2・3合併号, pp.1-12.
- 5) 青山吉隆、松中亮治、白柳博章、荻野久仁子(1999),「歴史的・文化財の価値の分類と利用価値の経済的計測」,土木計画研究, 16, pp.55-60.
- 6) Adamowicz, W., Louviere, J., and Williams, M.(1994) "Combining revealed and stated preference methods for valuing environmental amenities", *Journal of Environmental Economics and Management* 26, pp.271-292.
- 7) Adamowicz, W., Boxall P., Williams, M., Louviere, J., (1998) "Stated Preference Approaches for Measuring Passive Use Values, Choice Experiments and Contingent Valuation", *American Journal of Agricultural Economics*, 80, pp.64-75.
- 8) Hanemann, W.M.(1995) "Contingent valuation and economics", in Willis, K.G. and Corkindale, J.T. eds., *Environmental valuation : new perspectives*. CAB International.
- 9) Johansson, P.-O.(1987), *The economic theory and measurement of environmental benefits*. Cambridge University Press.
- 10) Zheng, Y.(2003) "Nonsampling Errors from Measurement Instruments in the Environmental Valuation Survey – On Payment Vehicle Biases in the Contingent Valuation Method(CVM)", *The Japanese Journal of Behaviormetrics*, 30, pp.135-148.